リョービ株式会社
（RYOBI LIMITED）

銘柄コード	5851
法人番号	8240001034478

＊は選択開示項目

日本標準産業分類	コード	項目名
中分類	23	非鉄金属製造業
細分類（主たる事業）	2353	アルミニウム・同合金ダイカスト製造業
エネルギー管理統括者	【役職】　執行役員　管理本部本部長 【氏名】　浦上　浩司	

エネルギー総使用量	1,012,898 (1,100,800)	GJ	26,133 (28,401)	kℓ
前年度エネルギー総使用量			26,979	kℓ
非化石エネルギー総使用量＊	140,235	GJ	3,618	kℓ
調整後温室効果ガス排出量	57,492	$t\text{-}CO_2$		

【エネルギーの使用の合理化】

主たる事業におけるエネルギー消費原単位※注（2023年度実績）	0.3608 (0.3882)		原単位分母【生産重量(t)】		
	主たる事業の構成割合		61.3 (60.7)		%
事業者全体のエネルギー消費原単位対前年度比	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
		103.7	96.7	99.3	106.7
事業者全体の5年度間平均原単位変化（%）	101.5				

※ 主たる事業は、必ずしもエネルギー消費量の多寡で決定されるものではなく、日本標準産業分類の考え方に基づき各事業者が決定したもの。

【調整後温室効果ガス排出量の算定に用いた認証排出削減量等の量】

種別＊	合計量＊
-	- $t\text{-}CO_2$
-	- $t\text{-}CO_2$
-	- $t\text{-}CO_2$
-	- $t\text{-}CO_2$

【電気の需要の最適化】

主たる事業における電気需要最適化評価原単位（2023年度実績）＊	0.3792 (0.4138)		原単位分母【生産重量(t)】		
DR実施日数＊	9				
事業者全体の電気需要最適化評価原単位対前年度比＊	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
		104.3	96.3	99.4	106.7
事業者全体の5年度間平均原単位変化＊	101.6				

【非化石エネルギーへの転換】

電気の非化石比率	事業者全体で使用する電気				
目標（2030年度）	36.0%				
直近５年度間の実績値	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
					19.7%
目安設定業種	-		-		
目安（2030年度）	-				
	-				
目標（2030年度）	-				
直近５年度間の実績値	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
					-
目安設定業種	-		-		
目安（2030年度）	-				
	-				
目標（2030年度）	-				
直近５年度間の実績値	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
					-

【ベンチマーク指標の状況（合理化）】

ベンチマーク区分	-	-
目指すべき水準	-	-
ベンチマーク指標の状況	-	
ベンチマーク区分	-	-
目指すべき水準	-	-
ベンチマーク指標の状況	-	
ベンチマーク区分	-	-
目指すべき水準	-	-
ベンチマーク指標の状況	-	
ベンチマーク区分	-	-
目指すべき水準	-	-
ベンチマーク指標の状況	-	

【取組の概要：業界の事情等を考慮した取組について（定性的事項）】

（自由記述欄）

１．エネルギーの使用の合理化に関する事項

直近4年間、私たちはアルミ溶解炉・保持炉の放熱対策、エア漏れ対策、待機電力の削減など、徹底した省エネ活動を行ってきました。放熱やエア漏れ対策については、ビューアーを使用して定期的に点検を実施し、人の感覚では発見しづらい不具合箇所を見つけて対策しています。また、エネルギー使用量の見える化を進め、リアルタイムでの使用量を把握できるようにし、エネルギー使用効率の改善につなげてきました。
しかし、コロナ禍や半導体不足の影響で受注量が減少し、さらに昨年度は本社・広島工場の耐震化工事のため、当工場の生産設備を縮小した結果、生産量が大幅に減少しました。そのため、原単位が悪化し、5年間の原単位の年平均が1%以上改善できませんでした。
今後は、引き続き徹底した省エネ活動を実施し、省エネ効果の高い設備への投資を積極的に行うとともに、エネルギーの使用の合理化を推進していきます。

２．非化石エネルギーへの転換に関する事項

太陽光発電設備の設置や非化石エネルギー比率の高い電力事業者への変更等を計画し、非化石エネルギーへの転換を推進していきます。

必読：本開示シートを閲覧するにあたっては「省エネ法定期報告情報の開示制度手引き」を参照お願いします

【参考情報】

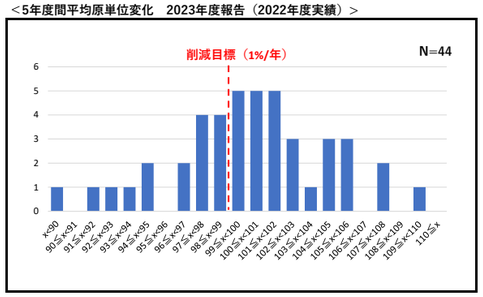
＜業界の特色＞

非鉄金属製造業は、鉱石（粗鉱、精鉱）、金属くずなどを処理し、非鉄金属の製錬及び精製を行う事業、非鉄金属の合金製造、圧延、抽伸、押出しを行う事業及び非鉄金属の鋳造、鍛造、その他の基礎製品を製造する事業を行います。電線、ケーブルを製造する事業及び核燃料を製造する事業も含まれます。
非鉄金属製造業は2022年度国内の産業の2.1%のCO2を排出しています。
日本鉱業協会は、「カーボンニュートラル（CN）行動計画」を策定し、「2030年度のCO2排出量を2013年度比で38%削減し、278万t-CO2」とする目標を掲げています。
カーボンニュートラル実現に向けて、①バイオ、廃プラ等脱炭素に資するエネルギー源を利用した非鉄金属リサイクル促進技術の開発、②製錬所等における徹底した省エネ実現のための熱電素子、新エネルギーストレージ材料等の開発、③非鉄金属リサイクルを念頭に置いたマテリアルフロー分析(MFA)とLCAのデータベース確立と発信を重点的に取り組んでいます。

＜定期報告書データに基づく業界毎の集計値＞　注：エネルギー使用量のシェアが全体の0.03%以上で、事業者数が 10 件以上の業種細分類について集計

2353　アルミニウム・同合金ダイカスト製造業		2023年度報告（2022年度実績）		
		平均値	中央値	最大値
エネルギー総使用量	kl	4,788	2,572	48,035
非化石エネルギー総使用量	kl			
調整後温室効果ガス排出量	$t\text{-}CO_2$	12,153	5,643	94,327
DR実施日数	回			

＜5年度間平均原単位変化　2023年度報告（2022年度実績）＞



【取組の概要：カーボンニュートラルに向けて】

（自由記述欄）

１．自由記述欄 （カーボンニュートラルの実現等に資する事業者独自の取組や革新的技術に係る研究開発等の取組について）

当社は、マテリアリティの一つに気候変動への対応を掲げ、2050年までにカーボンニュートラルの達成を目指しています。マイルストーンとして、2030年までにCO2排出量を2018年比で47%削減することを設定し、以下のような取り組みを行っています。

Ⅰ．組織
当社およびグループ会社（国内：8社、海外：5ヵ国6社）からなる環境保全委員会を組織し、カーボンニュートラルに向けた活動を推進しています。代表取締役社長を委員長とし、副委員長に取締役・執行役員、部会長に本部長・部長・工場長およびグループ会社の社長を任命しています。年2回の会議を開催し、気候変動を含む環境課題に対する基本方針の策定、施策や具体的な活動計画の立案、および実施状況のレビューを行い、PDCAサイクルを回しています。また、ISO14001の認証を取得し、環境に関するマネジメントシステムを構築・維持・運用しています。

Ⅱ．取り組み内容
A．徹底した省エネ活動
・アルミ溶解炉・保持炉の放熱対策
・エア漏れ対策
・省エネ効果の高い設備への切り替え
B．低炭素エネルギーへの転換
・アルミ溶解炉の燃料をA重油からLNGに変更
・エンジンフォークリフト（軽油、ガソリン）をバッテリーフォークリフトに変更
・冷暖房に使用しているLPG吸収式冷温水発生機をヒートポンプ（電力）に変更
C．非化石エネルギーへの転換
・太陽光発電設備の導入
・水力発電設備の能力アップ：グループ会社の生野株式会社では、工場のそばを流れる川の水を利用し、自社の使用電力の40～50%を水力発電で賄っています。設備が老朽化しており、改修等を行い発電能力の向上に取り組んでいます。
D．アルミ溶解炉燃料の脱炭素化
NEDOのグリーンイノベーション基金事業「製造分野における熱プロセスの脱炭素化」プロジェクトに参加し、溶解炉に水素を使用する技術の確立に取り組んでいます。三建産業株式会社様を幹事とし、当社を含む企業３社と２つの国立大学法人で共同しています。

２．関連リンク

ＴＣＦＤ提言に基づく情報開示	:	https://www.ryobi-group.co.jp/csr/tcfd.html
統合報告書２０２４	:	https://www.ryobi-group.co.jp/ir/docs/integrated2024.pdf
環境データ	:	https://www.ryobi-group.co.jp/csr/data.html